

私立大学研究ブランディング事業

令和元年度の進捗状況

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学(文学部・大学院文学研究科・高野山大学図書館・密教文化研究所)				
事業概要	高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連続と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。				
①事業目的	本研究の目的は、①真言密教の研究への新たな研究ツールの提供、②高野山に関する密教学的研究の深化・促進(研究者のみならず、内外の一般ユーザー、地域住民、内外の観光客)③国際観光都市としての地域の再発見である。①②③を通じて、世界遺産である高野山全体のブランド力を高めることを目指している。				
②令和元年度の実施目標及び実施計画	高野山アーカイブ 辞書機能との連動について・地図アプリについて本稼働、調整随時行う ■評価評価実施(内部、外部) ■年間計画 弘法大師全集「平均620ページ」目標 ■広報サイト構築 ■評価評価実施(内部、外部) ■長期計画案立案				
③令和元年度の事業成果	■「高野山アーカイブプロジェクト」HPに「平成30年度の進捗状況」公開(令和元年5月31日)。 ■「高野山アーカイブ」 https://archives.koyasan-u.ac.jp/ 「定本弘法大師全集」のデータ化及び高野山大学図書館所蔵資料のデジタル化。 デジタル化した所蔵資料の公開(令和元年2月末時点の公開状況は以下の通り) 「弘法大師空海の著作」:76点、「高野山の歴史と信仰」:141点、 「真言密教の世界」:15点、「高野山大学の密教研究」:3点 資料公開にあたり、高野山大学HP、高野山アーカイブプロジェクトHP、高野山アーカイブトップページの「お知らせ」において、その都度発信。 辞書機能との連動につき、昨年度から継続して協議・検討を行った。 ■地図サイト「古絵図であるく高野山」公開(平成31年4月25日) https://m.stroly.com/koyasan/i#1544497603 サイトの広報媒体としてA4判三つ折りリーフレットを作成し、各所に無料頒布。 リーフレットにはQRコードを付し、サイトへのアクセスの利便性を図った。 ■シンポジウム「高野山研究における古絵図資料の可能性とその活用」開催。 (令和元年10月6日 於:難波サテライト教室) 共催:高野七口再生保存会 後援:南海電気鉄道株式会社 第1部 基調講演:山陰加春夫(高野山大学名誉教授) 「高野の聖たちー高野山一心院谷の場合ー」 第2部 特別講演:小林健二(国文学研究資料館名誉教授) 「太閤秀吉の高野参詣で新作上演された豊公能をめぐって」 第3部 パネルディスカッション パネリスト 山陰加春夫、佐藤隆彦(高野山大学密教文化研究所所長)、 入谷和也(高野七口再生保存会事務局)、藤田美紀(株式会社Stroly) コーディネーター 櫻木 潤(高野山大学専任講師) 定員70名の事前申込制とし、当日の参加者は66名であった。 開催にあたり、南海電気鉄道株式会社広報誌「Natts」、高野山時報、六大新報、 仏教タイムスなどを通じて広報活動を行った。 ■令和元年度の進捗状況について、内部評価および外部評価を実施(令和2年3月)。				

<p>④ 令和元年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価)</p> <p>■「高野山アーカイブ」(詳細は上記参照)</p> <p>◎資料のデジタル化は、実施計画に照らしてやや点数が少ないため、計画と比べて実施実績が十分でなかったと言える。点数の不足については、今後、補填されることが望ましい。新規情報の発信は、「広報サイト構築」の一環として評価できる。辞書機能との連動については、慎重に協議・検討していることは評価できるが、より良い結論を早期に得られることが望まれる。</p> <p>■地図サイト「古絵図であるく高野山」の公開</p> <p>◎前年度末の計画が、1ヶ月ほど遅れたために今年度の公開となった。計画通りではなかったものの、拙速を避けたための誤差として差し支えなく、事業目的にも適うものとして評価できる。</p> <p>■シンポジウム「高野山研究における古絵図資料の可能性とその活用」の開催</p> <p>◎上記の「地図サイト」利用を推奨するための有意義な活動であると評価できる。</p> <p>■令和元年度の進捗状況について、内部評価および外部評価を実施(令和2年3月)</p> <p>◎当初5年の計画が、文部科学省による支援期間の短縮によって4年間となったことの影響は考慮されてよい。総合的には、当初計画を修正しつつ、実現可能な事業を展開してきたと評価できる。「高野山アーカイブ」については、辞書機能との連動など未達の計画もある。今後も改良を加え、コンテンツの増加やユーザーインターフェースの改善など、質・量ともに向上して行くことが望まれる。地図サイト「古絵図であるく高野山」についても同様である。</p> <p>◎ブランディング事業は、今後も継続すべきである。そのためにも、予算や人材の獲得・編成、事業の改善・追加、最新の研究成果・技術の更新・導入など、恒常的な計画として取り組む必要がある。その役割を担う機関として、これからも国内外の要求に応えられるよう、高野山大学密教文学研究所には、より一層の期待を懸けるものである。</p>
	<p>(外部評価) プロジェクトの期待度・評価の測定方法・助言等</p> <p>■定本弘法大師全集のデータ化、図書館蔵の資料のデジタル化は、新たな空海密教の基礎となるもので、新しい密教が展開することを期待する(外部有識者A)。</p> <p>■高野山所蔵の資料が公開されることになれば、それを中心として、例えば『東寺観智院金剛藏聖教目録』『智山書庫所蔵目録』等との交流を目指し、新しい真言宗学の再生をめざしてほしい(外部有識者A)。</p> <p>■『続々真言宗全書』の刊行を期待したい(外部有識者A)。</p> <p>■『定本弘法大師全集』の原本が入手できるというのも素晴らしい資料である。丁寧に編集された他に類を見ないこのコレクションは、海外の図書館ではなかなか手に入らないため、学術的にも大きな恩恵を受けていると思う(外部有識者B)。</p> <p>■地域のメディアを活用してアーカイブの存在を広くアピールすることが重要であり、ウェブ検索での上位表示に細心の注意を払って、アーカイブのウェブサイトのエンコードを完了させることが肝要である(外部有識者B)。</p>
<p>⑤ 令和元年度の補助金の使用状況</p>	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>経常費補助金 内訳</p> </div> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ・委託費 ・光熱水費 ・消耗品費 ・印刷製本費 ・通信費 ・旅費交通費 ・人件費 ・教育研究機器備品 </div> <div style="flex: 1;"> <p>委託費 75.68%</p> <p>光熱水費 4.11%</p> <p>消耗品費 5.22%</p> <p>印刷製本費 1.86%</p> <p>通信費 0.23%</p> <p>旅費交通費 0.63%</p> <p>人件費 2.89%</p> <p>教育研究機器備品 9.37%</p> </div> </div>